

広島大学附属東雲小学校 150 周年記念式典

式 辞

ここ附属東雲に、秋の香りが漂い始めた今日、この佳き日に、広島大学の鈴木由美子理事・副学長をはじめ、ご来賓の皆様、関係の皆様のご臨席を賜り、広島大学附属東雲小学校の 150 周年記念式典を挙行できますことに、心より感謝申し上げます。

広島大学の起源である白島学校が 1874 (明治 7) 年に創立、その翌年には白島学校が広島県公立師範学校と改称、そこに附属校が設置されて、当時は「模範学校」と呼ばれていたようです。これが現在まで続く広島大学附属東雲小学校の始まりとされています。

当初の本校は、現在の広島市中区東白島町の妙風寺、円光寺、禿翁寺に囲まれた京橋川沿いにありました。翌年には西白島町の本川沿い、その翌年には基町を経て、本日にご講演をいただきます本校の第 120 回の卒業生である中谷康韻さんが現在はお住職をされている「とうかさん圓隆寺」の西隣への移転を繰り返しながら、その後は八丁堀を経て、現在の小町の戒善寺の北隣で約 20 年、現在の皆実町で約 40 年の後に、1941 (昭和 16) 年に現在の東雲の地へと落ち着くこととなりました。

本年 2025 (令和 7) 年は、広島大学附属東雲小学校の創立時の姿である広島県公立師範学校附属校が設置されてから 150 年です。ここ東雲の地での営みとしても 84 年の歳月になります。東雲の地での学びが始まってから 4 年後の被爆から今年は 80 年、現在も続く山の学習が始められてから 76 年、海の学習は 69 年、養護学級は 64 年、現在の校舎は 55 年、そして複式学級は 53 年の歴史を積み重ねてきています。

このような本校の歩みを改めて振り返ると、ここでの学びは必ずしも一本道だけではなく、山登りのように曲折を経ながら、大海のような荒波に揉まれながらも、何よりも一人一人の児童を大切に、一人一人の人間としての多様性を大事にし続けてきた営みの蓄積が、現在の東雲の子供たちの姿として、教職員の皆さんの在り方として、そして保護者や同窓生の皆様の温かいまなざしの中に、しっかりと刻み込まれているように感じています。

この先の 200 年、300 年にむけても、広島大学附属東雲小学校は引き続き、東雲家族、チーム東雲、ワンチーム・ワン東雲として、関係の皆様と共に、更なるより良い成長を目指して、前へ前へと進んで参りたく存じます。

広島大学附属東雲小学校の児童の皆さん、本校に関わり続けてくださる皆さんの、一層の成長と健康を祈念し、学校長の式辞といたします。

令和 7 年 10 月 25 日

広島大学附属東雲小学校長 永田 忠道